



今年の稲作を振り返っていかがだったでしょうか。水口に雑草が残った、毎年同じ雑草が残る、ヒエが残るとい方はいませんか！

今年の疑問？今年の内に！



最近の除草剤は非常に除草効果が高く、90～99%が枯れるとされています。それでも水田に雑草が残る原因はいくつか考えられます。まずは自分の圃場になぜ雑草が残っているのか原因を探り、解決していくことが重要です。

- ◆ 圃場自体の問題 … 圃場は均平か、漏水はないか。
- ◆ 抵抗性雑草の問題 … 薬剤の選択ミスはしていないか。
- ◆ 散布の時期の問題 … 散布が遅れていないか、除草体系は適切か。

圃場にいつも同じ雑草が残ってしまう！

それは抵抗性雑草かも…

●抵抗性雑草とは…

同じ(成分)農薬を使い続けると、その農薬成分が効かなくなる現象です。

抵抗性雑草であれば、通常の十～数百倍の濃度で処理しても枯れませんので、SU抵抗性と記載のあるものを選択します。



【対策】…防除体系(薬剤)の見直し

- ① 『初期剤＋一発剤』・『初期剤＋中後期剤』等の体系除草
- ② 初期剤による取りこぼしをなくするため抵抗性雑草に効く成分の入った殺傷力のある剤に変更
- ③ 一発剤を選ぶ場合は、その草に効く成分が2つ以上入ったものにする
- ④ 『初期剤＋一発剤』の体系処理は、両方に効く成分が入っているものを選択
→初期剤(抵抗性雑草に効く成分の入った剤)＋SU混合剤(抵抗性雑草に効く成分)

※無くしたい雑草にターゲットを絞り、目的を達成したら剤を変更する。多年生(球根)では防除に2～3年要するものもあり効果の薄い剤への変更には注意します。

※特に雑草が問題となっていない場合でも、同じ農薬の連用は抵抗性の発生を助長する危険性があるので、できるだけ同じ農薬の連用は避けるようにしましょう。

後半発生するヒエに困っている！

ヒエと一概に言っても数種類のヒエがあり、生育にも違いがあります。『タイヌビエおよびヒメタイヌビエ』は湛水条件で発芽します。よってこれらは早い段階で発芽するので初期剤・一発剤で防除ができていた場合が多いと思いますが、『イヌビエおよびヒメイヌビエ』は湛水状態よりも、畑条件および湿潤な土壌状態の方が発芽しやすいという特徴があります。よって後者2種類は中干し以降が発芽しやすい条件となり、これ以降に発芽したものが多く残ってしまっている圃場が多いようです。この頃にはもう効果的な防除法がないため、以前は人が圃場に入り抜き取っていたのですが、面積の集積による大規模化や高齢化等による労力不足でなかなか圃場に入って抜き取りできなくなってしまったのが、このヒエが増えてきている原因となっているのではないのでしょうか？



いつも水口周辺に雑草がのこってしまう！

水口周辺は水が動き水温が低いいため、除草剤の効果がなくなつてから雑草が発生してくる場所です。

除草剤の使用に工夫が必要